

政治化された科学は致命的なものになりうる：誠実を取り戻す時

【Greatchain 解説】

これは、この記事の完全な訳でなく、その抜き書きのようなものである。主流メディア（ニューヨーク・タイムズ）にあきれ果てて、辞職した女性記者の言っていることが、体制派ダーウィニストの言っていることと、全く変わらないという部分に注目するとよい。ウソをつく、不誠実、人を騙して世に広く害毒を流す、という点で、主流新聞やテレビと、科学者共同体は、歩調を取り協力している。

この恥ずべき事態を、この者たちは、恥ずべきことでないかのように思わせようとしている。このブログは多種多様な問題を取り上げているが、これこそが肝要の問題で、我々のルサンチマンの根源でもある。なぜなら、ここで言っているように、「生命はどこから来たのか？ 我々はなぜここにいるのか？」という問いかけを、彼らは明らかに故意に避けている。それは、科学の探究とは全く関係のない、真理を葬り去ろうとする魂胆からきている。なぜそうなのか、それをこそ問わねばならない。

欧米の危機としての、暴動や反乱の根にある問題も、その本質は人種などでなく、そこにあると考えられる。

David Klinghoffer (evolutionnews.org)

July 16, 2020



「我々はあらゆることについてウソをつかれている。」——これは苦しい真実を述べたあるツイートの全文で、先日、私が胸を突かれたものである。それはある若い女性からのものだが、そのツイッター仲間から判断すると、彼女の一番の興味は、科学の専門家たちのCOVID-19パンデミックへの反応であるようだ。

この言葉は、Bari Weiss という、ニューヨーク・タイムズ記者を辞職した、別の若い女性の、驚くべき公開声明文に反応したものである。このやめた女性の説明によると、彼女はこの新聞の、支配的な「正統派ぶり」「事前に決まっている物語」「おどし」「オンライン有毒物」、誹謗中傷、ウソ、それに思想的に迎合しない人々への虚偽宣伝に、嫌気がさしたのだと言っている。

その通りだ。彼女は、学者共同体のダーウィニズムの世界を説明しているかのようだ！

危機の時代

アメリカは目覚めつつあり、科学とメディアに見られる、危険な誠実さの欠如を認めつつある。危機の時代にあって、人々は各自ができることをやることによって、大きな違いをもたらすことができる。

人々はいわゆる「専門家」を信用していない。なぜなら、科学とメディアの大幅な部分が、真実を、あるイデオロギーの進行計画と、取り違えているからである。我々は、彼らが我々に話す事柄に、麻痺させられている。

「ディカバリー研究所」の科学と文化センターは、科学をその本来の信用性へと回復させようと試みている。どのようにしてか？ メディアの脅しを退けて、「専門家」の方々に直接、挑戦することによってである。我々の英雄たちは、勇気があり、真実を語る科学者たちであり、知的体制派の自己満足的な無神論を覆す人々である。彼らは、あらゆる問いの中で最も重要な、生命はどこから来たのか、我々はなぜここにいるのか、という問いを問いかけている。